

ビューポイントパーキングの 計画・設計に関する一考察

国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 地域景観チーム ○田宮 敬士
福島 宏文

地域景観チームでは、郊外部道路における利活用ニーズの変化を踏まえて、景観、安全、使いやすさの機能を総合的に高めることを目指した「道路空間リデザイン」に関する研究を進めている。本稿ではその一環として、沿道駐車場など「溜まり空間」の機能向上の観点から、眺望やビューポイントとしての機能に着目し、ビューポイントパーキングの計画・設計における技術開発を目的として、事例調査と現地調査に基づき、その計画・設計に関する分析を行った。

キーワード：ビューポイントパーキング、道路空間リデザイン、景観、眺望

1. 研究及び本稿の概要

(1) 研究の概要

郊外部の道路においては、人口減等の社会環境変化や、観光利用やサイクルツーリズムなどの多様なニーズに対し、既存ストックが適切に活用されておらず、求められる機能が発揮できていない。この社会環境変化とは、例えば、人口・沿道利用・交通量の減少、限りある維持管理費、高齢者や外国人ドライバーの増加、今後の自動運転車の混在などを指す。これらの背景を踏まえると、従来からの安全かつ円滑な交通流の確保を主とした道路整備だけでなく、機能やストック効果の最大化に向けて、社会環境の変化に合わせた道路空間の最適化（道路空間リデザイン）も必要である。

そこで、地域景観チームでは、これらの社会環境変化や多様なニーズに応えるため、景観、安全、使いやすさの機能を総合的に高める道路空間リデザインの計画・設計技術を開発することを目的とした研究を進めている。具体には、1)観光利用や地域振興を目的とした「溜まり空間」の計画・設計技術の提示、2)郊外道路における分かりやすい「標識・標示」の適正配置の計画・設計技術の提示（寒地交通チーム）、3)「サイクル走行空間」の合理的な空間配分と走行路面の断面構造の計画・設計技術の提示（寒地道路保全チーム）を主として、これらの個別の機能評価と道路空間全体の総合的な評価、リデザイン手法の構築を行う。研究の流れを図-1に示す。

(2) 本稿の概要

図-1に示す研究のうち、本稿では、沿道駐車場など「溜まり空間」の機能向上の観点から、眺望やビューポイントとしての機能に着目し、ビューポイントパーキングの計画・設計における技術開発を目的として、事例調査

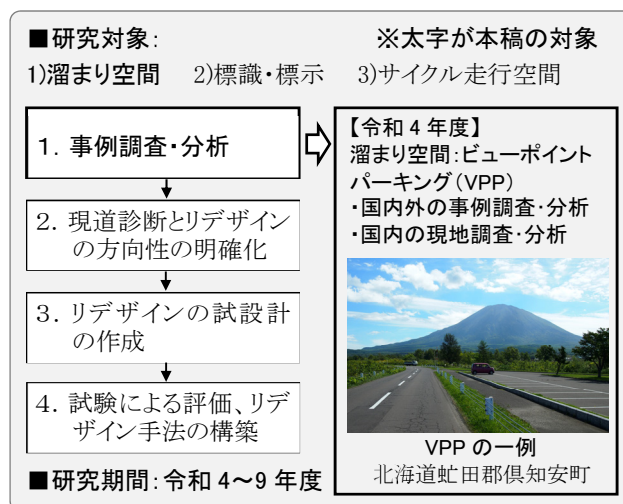


図-1 道路空間リデザインに関する研究の流れ

と現地調査に基づき、その計画・設計に関する分析を行った。

ビューポイントパーキングとは、海外では「Viewpoint Car Park」「Viewpoint Parking」などと呼ばれ、国内 2)では「見晴らしの良い駐車場」「景観の優れた駐車場」などと解釈され、快適で質の高い休憩場所や写真撮影場所の提供などを目的として整備された空間である（以下、「VPP」という。）。このVPPの計画・設計に関する知見は十分でなく、道路構造令の解説と運用 3)において「9-4-7 休憩施設」として第1種道路を主としたパーキングエリアやサービスエリア、「道の駅」を対象としてその必要性や概要のみが示されており、北海道開発局道路設計要領第2集 3)においては「1.9 自動車駐車施設等」としてバス停車帯及び路側駐車場を対象として構造が示されている程度である。また、観光利用や地域振興を目的とした場合の計画・設計技術や整備にあたって具体的な手法は示されていないことから、その技術開発が求められている。

2. VPPに関する事例調査

VPPの計画・設計における技術開発を目的として、国内外における設計事例や文献に基づき、VPPに関する事例調査を行った。

(1) 海外事例調査の概要

a) 海外の事例調査方法

海外事例については、アメリカの国立公園における道路設計事例集⁴⁾を基にVPPのタイプや設計の考え方を調査した。あわせて、ノルウェーの観光道路における開発から管理迄の指針⁵⁾を基にVPPの計画や評価項目を調査した。

b) アメリカの事例調査結果

アメリカの設計事例集『America's National Park Roads and Parkways Drawings from the Historic American Engineering Record』(以下、「ANP」という。)は、メイン州アカディア国立公園など複数の公園道路の特性をはじめ、設計、建設の慣行、訪問者の体験を踏まえて、道路をどのように作るべきかを説明した記録書である(図-2)。エンジニア、ランドスケープアーキテクト、文化資源の専門家が設計上の決定を導き、史跡を解釈し、保全と環境保護に関する議論を行うための実用書となっている。VPPに関しては「Viewpoint Car Park」などと称されて、駐車場や眺望のタイプや設計の重要なポイントが示されている。ANPにおいて重要と考える事項を以下に列挙する。

- ・設計全般に関しては(図-2 左上)、方向板や説明板、ガードレールなどそのほとんどが地産の石や木で作られ、周囲の自然環境に溶け込むよう、素朴な形にデザインが施されている。
- ・駐車場に関しては(図-2 左下)、そのタイプが用途と滞在時間に合わせて以下分類されている。①「Drive-

by Pullout」(立寄り・5分程度)、②「Information Pullout」(案内・10分程度)、③「Interpretive Wayside」(説明・15分程度)、④「Picnic Wayside」(散策・1時間未満)、⑤「Interactive Wayside」(施設滞在・1時間以上)。

- ・眺望に関しては(図-2 右下)、そのタイプが道路空間からの視対象に合わせて以下分類されている。①「Axial View」(軸上眺望)、②「Open View」(広がった眺望)、③「Framed View」(枠内眺望)、④「Filtered View」(透過眺望)、⑤「Focal Point」(焦点)、⑥「Closed View」(閉ざされた眺望)、⑦「Canopy View」(林冠眺望)。

c) ノルウェーの事例調査結果

一方、ノルウェーの開発・運用・保守・管理の指針『Nasjonale turistvegar Utvikling, drift, vedlikehold og forvaltning』⁵⁾は、ノルウェー国家道路管理局がナショナル・ツーリスト・ルート(以下、「NTR」という。)と称した18区間の観光道路を選定し、開発・運用・保守・管理の指針を示したものである(図-3)。ノルウェーの最も美しい自然の中で、旅行者に刺激的で変化に富んだ旅を提供することをトレードマークとしている。NTRが特別なのは、休憩所がビューポイントを中心に、斬新な建築や芸術、質の高い家具が自然体験にさらなる広がりを与えていることである。NTRにおいて重要と考える事項を以下に列挙する。

- ・道路からの眺めの良さは、全国的な観光ルートとしての可能性を左右する重要な要素である。【0.序論】
- ・ユニークな自然を巡るツアーが基本であり、その手段として革新的な建築を使い、良いストップを作り、プレゼンテーションすることが必要である。【2.背景】
- ・建築の高い品質を確保するために、建築評議会を任命する。【11.組織】
- ・自治体は、開発・計画だけでなく活動の提供などにおいても重要なパートナーとなるため、できるだけ早い時期に協力協定を締結する。【12.役割】
- ・実施段階で観光の質を確保するために、質の高い施工管理と有能な請負業者が必要である。【13.重要事項】



左上:設計全般(p.52)
左下:駐車場(p.163)
右下:眺望(p.245)

図-2 アメリカの設計事例集

America's National Park Roads and Parkways Drawings from the Historic American Engineering Record⁴⁾



図-3 ノルウェーの指針事例

左: Nasjonale Turistvegar Utvikling, drift, vedlikehold og forvaltning⁵⁾
右: Nasjonale Turistvegar⁶⁾

- ・観光ポテンシャルの評価基準として以下の8つが定められており、その中の1.及び2.の基準を満たさない場合、観光ルートの登録が廃止される。また、道路の役割は観光地をつなぐだけのものではないことを認識する。「1.ユニークな自然景観の通過」「2.ドライブと休憩自体が観光資源」「3.特徴的な自然・文化環境の存在」「4.雄大で手つかずの自然でのアクティビティ」「5.高いレベルのサービスと情報の質の提供」「6.主要交通手段の代替性」「7.環境保全」「8.ルートのステータスの認識」【付録2】

(2) 国内事例調査の概要

a) 国内の事例調査方法

国内事例については、Webページで公表されている国土交通省北海道開発局及び九州地方整備局のVPPを対象として、それを計画・設計する上で重要な要素となる視点場（環境を眺める場所）と眺望に関し、「2. (1) の事例調査結果に基づくタイプの仮分類」と、「既往文献に基づく設計留意事項の調査・整理」を行った。

b) 国内の事例調査結果

VPPの視点場と眺望タイプの仮分類を図-4に示す。前述2. (1)b) の事例を踏まえて、VPPの視点場のタイプはPullout (路側)とWayside (沿道)をベースとして、「I. 路側駐車場」、「II. 路側外駐車場」の2つに大別し、眺望のタイプはOpen (広がった)とClosed (閉ざされた)をベースとして「a.全周型」「b.広域型」「c.狭域型」の3つに大別した。これらのタイプを、北海道開発局が公表している127のVPPに当てはめて、その割合を調査した。調査にあたっては、Google Earthによる画像を基に行った。

その結果、視点場タイプI (路側駐車場) が75%、タイプII (路側外駐車場) が25%であった。また、眺望タイプa (全周型) が31%、タイプb (広域型) が66%、タイプc (狭域型) が3%であった。

次に、国内におけるVPPの設計事例が十分でないため、

表-1 調査対象とした文献と収集された記述の概要

文献	概要	分類
風景学入門 ⁹⁾	・「対象のφが20°でθが10°程度が「図」としてまとまりやすく、したがって、眺めやすい視角の大きさの限界の目安になると考えてよい」(p.46)	眺望1
	・「道路の風景づくりに路傍植栽は欠かせない」(p.104)	視点場①
	・「領域の境界や物の輪郭といった空間の縁が人間の視知覚の特性があり記憶に残りやすい、(中略)座敷の縁先、屋敷の外構、都市の縁辺部、水陸の境、山と平地の境目、山のふもとなどを想定している」(p.108)	眺望2
パーキングの環境デザイン ⁸⁾	・「注意深くさげない設計上の工夫によって、安全に保護されているという安心感を歩行者に与えることが大切である」(p.32)	視点場②
自動車道路のランドスケープ計画 ⁹⁾	・「良好な休憩環境をもたらす重要な要素は、良好な眺望と豊かな緑である」(p.26)	視点場③
堀繁講話集 景観からの道づくり ¹⁰⁾	・「いい景観とは、自分が見たいものが他のものに邪魔されずに程良い大きさに見えている景観のこと」(p.11)	眺望3
	・「空間認識の手がかりを木で与える」(p.56)	視点場④
	・「人間を大事にしているように見える、そういう風に整備することが大事」(p.78)	視点場⑤
道路景観整備マニュアル ¹¹⁾	・「①自然の材料(自然石・樹木)を導入すること、②自然の地物を道路からの眺めに取り込むこと、③沿道側の協力を呼びかけること」(p.18)	視点場⑥
	・「アイストップとなる樹木の植栽」(p.127図内)	視点場⑦

道路景観設計などの幅広い観点からの文献を参考として、設計のポイントとされる記述を調査・整理した。調査対象とした文献と収集された記述の概要を表-1に示す。視点場に関しては主に、地域の自然素材の活用 (表-1内・視点場⑥)、調和や視認性に適した植栽 (表-1内・視点場①③④⑦)、訪れる人への配慮 (表-1内・視点場②⑤) が示されていた。また、眺望に関しては主に、仰角や俯角が10°程度の適度な見込み角 (表-1内・眺望1)、附属物等により景観を阻害させない (表-1内・眺望)、領域の境界や物の輪郭を明確にする (表-1内・眺望2) ことが示されていた。

(3) 国内外における事例調査結果の考察

事例調査結果に基づき得られた知見を以下に列挙するとともに、それらをまとめたVPPの検討におけるチェック項目を表-2に示す。

a) VPPの必要性など

- ・道路の役割は観光地などをつなぐだけのものではなく、そこでのドライブ自体が観光資源となり、その価値をより高めるためには、VPPや「道の駅」等の「溜まり空間」における休憩が必要である。
- ・「溜まり空間」の設計にあたっては、VPPにおける考え方、良好な「視点場」と「眺望」を盛り込むと良い。
- ・本研究における「溜まり空間」とは、①一般的な路側駐車場 (チェーン着脱場や転回場など)、②見晴らしの良い駐車場 (VPP)、③「道の駅」を指し、その検討とは①一般的な路側駐車場の更新 (眺望機能を付加)、②VPPの更新 (眺望と視点場機能の向上) と新設を対象に考える。

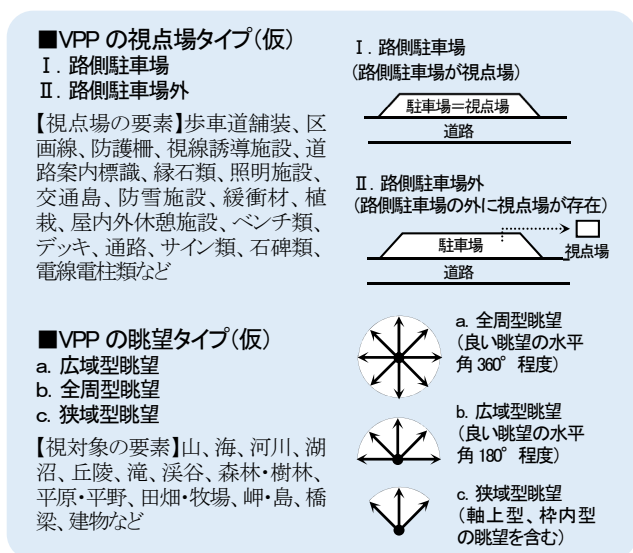


図-4 VPPの視点場と眺望タイプの仮分類

表-2 VPPの検討におけるチェック項目

分類	項目	名称	概要	引用事例
タイプ	I	路側駐車場	視点が路側駐車場の内に存在する	ANP: PulloutとWaysideをベース
		II.路側駐車場外	視点が路側駐車場の外に存在する	
	II	路側駐車場外	視点が路側駐車場の外に存在する	
視点場項目	1)素材	地域の自然素材(石材、木材等)を活用する	ANP:設計全般 NTR:評価基準1,3	表-1:視点場⑥
	2)植栽	調和や視認性に適した植栽を行う	表-1:視点場①③④⑦	
	3)配慮	訪れる人への配慮を怠らない	表-1:視点場②⑤ NTR:評価基準5	
眺望項目	a	全周型	眺望の水平角が360°程度	ANP: Open, closedをベース
	b	広域型	眺望の水平角が180°程度	
	c	狭域型	眺望の水平角が180°未満	
	4)見込み角	仰角や俯角が10°程度の適度な見込み角とする	表-1:眺望1	
	5)阻害	附属物等により景観を阻害させない	表-1:眺望3 NTR:評価基準4	
	6)境界	領域の境界や物の輪郭を明確にする	表-1:眺望2	

b) VPPの検討におけるチェック項目

- ・視点場について、「I.路側駐車場」「II.路側駐車場外」の2タイプを想定し、チェック項目として「素材」「植栽」「配慮」の3項目を想定する。
- ・眺望について、「a.全周型」「b.広域型」「c.狭域型」の3タイプを想定し、チェック項目として「見込み角」「阻害」「境界」の3項目を想定する。

3. VPPに関する現地調査

VPPに関する現地調査では、前章2.の事例調査で整理した「VPPの検討におけるチェック項目」の検証やVPPの現状把握などを目的として、タイプ分類やチェック項目に基づき、国内VPPの現地調査を実施した。

(1) 現地調査の概要

現地調査箇所の選定にあたっては、眺望対象となる風景の価値を一定にそろえるため、国立公園周辺にあるVPPを主対象とし、北海道及び九州における52箇所を選定した(図-5)。

具体的調査内容は、VPPの視点場と眺望に関する6つのチェック項目(表-2)に基づき、「◎:とても適合、○:適合、△:やや適合、×:不適合、-:該当なし」の5段階で筆者の主観により検証した。本検証では、視点場における施設の老朽化、眺望における天候や季節の移り変わりについては、考慮しないこととした。なお、調査は令和4年9月～11月に実施した。

(2) 現地調査結果

現地調査箇所 N=52 について、視点場と眺望の現地調査結果を以下に記す。視点場について、タイプ I (路側

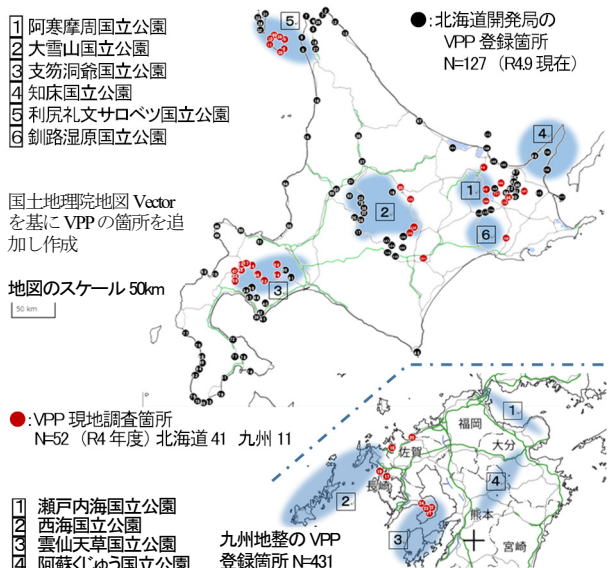


図-5 VPPの現地調査箇所

表-3 視点場及び眺望◎のタイプ別件数

	視点場タイプ		眺望タイプ		
	I N=36	II N=16	a N=23	b N=27	c N=2
視点場◎ n=7	n=4 (11%)	n=4 (25%)	n=4 (17%)	n=3 (11%)	n=0 (0%)
眺望◎ n=26	n=16 (44%)	n=10 (63%)	n=14 (61%)	n=11 (41%)	n=1 (50%)

駐車場)は36箇所、タイプII(路側駐車場外)は16箇所であり、◎とした箇所は各々4箇所、4箇所であった。また、眺望について、タイプa(全周型)は23箇所、タイプb(広域型)で27箇所、タイプc(狭域型)は2箇所であり、◎とした箇所は各々14箇所、11箇所、1箇所であった(表-3)。現地調査したVPPの一例を表-4～表-8に示し、その調査結果を以下に記す。

「視点場」の◎(表-4～8内の橙色部)は、④⑤⑦⑧⑩⑮⑯であった。

表-4 支笏洞爺国立公園周辺

①相川ビューポイントパーキング(北海道喜茂別町)			
視点場:	素材:	○ 既存林	
○	植栽:	○ 分離帯の花木	
タイプ I	配慮:	◎ 地区入口、案内標識	
眺望:	仰角:	◎ 10°(羊蹄山)	
◎	阻害:	○ 一部の矢羽根	
タイプ c	境界:	○ 山麓、道路、樹林	
②黒川ビューポイントパーキング(北海道ニセコ町)			
視点場:	素材:	—	
△	植栽:	○ 既存林	
タイプ I	配慮:	—	
眺望:	仰角:	○ 8°(羊蹄山)	
△	阻害:	× 電柱類	
タイプ c	境界:	○ 山麓、畑地、防風林	
③八幡ビューポイントパーキング(北海道ニセコ町)			
視点場:	素材:	○ 木製柵	
○	植栽:	○ 既存林	
タイプ I	配慮:	◎ 木製チェア類	
眺望:	仰角:	◎ 10°(羊蹄山)	
◎	阻害:	◎ 地域による電柱類移設	
タイプ b	境界:	○ 山麓、畑地、防風林	

表-5 利尻礼文サロベツ国立公園周辺

④富士野園地展望台駐車場(北海道利尻富士町)		
視点場:	素材:◎	木製サイン、石積擁壁
◎	植栽:◎	既存林
タイプⅡ	配慮:◎	木道、東屋
眺望:	仰角:◎	11°(利尻岳)
◎	障害:○	電線類一部あり
タイプa	境界:◎	山麓、野地、海
		
⑤オオマリ沼駐車場(北海道利尻富士町)		
視点場:	素材:○	木製サイン
◎	植栽:◎	既存林
タイプⅡ	配慮:◎	木道
眺望:	仰角:○	13°(利尻岳)
○	障害:◎	
タイプb	境界:◎	山麓、樹林、湖沼
		
⑥大磯駐輪駐車場(北海道利尻町)		
視点場:	素材:△	植栽:○
△	植栽:○	既存林
タイプⅠ	配慮:△	
眺望:	仰角:◎	11°(利尻岳)
△	障害:△	既存林
タイプc	境界:△	山麓、樹林
		

表-6 阿寒摩周国立公園、釧路湿原国立公園周辺

⑦女満別「メルヘンの丘」(北海道大空町)		
視点場:	素材:◎	木製柵
◎	植栽:△	
タイプⅠ	配慮:◎	木製デッキ類、コンクレーブ
眺望:	仰角:◎	1°(丘上の1本木)
◎	障害:◎	
タイプb	境界:◎	畑地、樹木、倉庫
		
⑧摩周第三展望台(北海道弟子屈町)		
視点場:	素材:○	木製サイン
◎	植栽:◎	既存林
タイプⅡ	配慮:○	木道
眺望:	俯角:◎	8°(カムイシユ島)
◎	障害:◎	
タイプa	境界:◎	湖畔、湖島、山並み
		
⑨塘路駐車場(北海道標茶町)		
視点場:	素材:○	木製柵
○	植栽:△	
タイプⅠ	配慮:○	視点ブロック化
眺望:	仰角:◎	10°(シラトロ沼畔林)
◎	障害:◎	
タイプb	境界:◎	湖沼、湖畔林、橋梁
		

チェック項目「素材」に関しては、④⑦⑩⑬には木製サインや石積擁壁など、地域の自然素材が多く活用されていた。なお、⑬の防護柵は鋼製ではあるが、スリムな形状であるため違和感を感じなかった。

チェック項目「植栽」に関しては、④⑤⑧⑬には既存樹林を活用した植栽が施され、⑩には地域団体による「道しるべの木」が植栽されていた。

チェック項目「配慮」に関しては、④⑤⑦⑧⑩⑬には木道や歩廊、木製デッキなど訪れる人に配慮したつくりになっていた。なお、案内板が直前になく通過してしまう VPP が多かったが、①③には直前 100m に地域団体による木製案内板が設置されていた。また、⑬では新西海橋の桁下に設けられた遊歩道から地域特有のうず潮を体感できる工夫、⑬では移動販売車による地域の人気ハンバーガーを販売し賑わいの創出に寄与しているなど、地域の特性を活かした工夫がなされていた。

「眺望」の◎(表-4~8の緑色部)は、①③④⑤⑦⑧

表-7 大雪山国立公園周辺

⑩豊岡見晴し台駐車場(北海道上士幌町)		
視点場:	素材:◎	木製ベンチ
◎	植栽:◎	地域による植栽
タイプⅡ	配慮:◎	歩廊
眺望:	俯角:◎	3°(防風林)
◎	障害:◎	
タイプb	境界:◎	畑地、防風林
		
⑪三国峠駐車場(北海道上士幌町)		
視点場:	素材:○	木製サイン、擬木柵
○	植栽:△	
タイプⅠ	配慮:○	木製歩道
眺望:	俯角:○	8°(溪谷)
○	障害:◎	
タイプb	境界:○	樹林 松見大橋は不可視
		
⑫銀河・流星の滝駐車場(北海道上川町)		
視点場:	素材:△	
○	植栽:○	既存林
タイプⅠ	配慮:△	案内標識少
眺望:	仰角:○	22°(流星の滝)
○	障害:△	
タイプb	境界:○	滝、断崖、河川
		

表-8 西海国立公園内周辺

⑬西海の丘展望台(長崎県西海市)		
視点場:	素材:○	擬木柵
○	植栽:○	中低木
タイプⅡ	配慮:◎	木道
眺望:	俯角:◎	5°(新西海橋)
◎	障害:◎	
タイプb	境界:◎	橋梁、海、岬・島
		
⑭土谷棚田駐車場(長崎県松浦市)		
視点場:	素材:△	擬木柵
○	植栽:△	
タイプⅠ	配慮:○	東屋
眺望:	俯角:◎	10°(棚田下海浜)
○	障害:◎	
タイプb	境界:◎	棚田、海、岬・島
		
⑮船越展望所駐車場(長崎県佐世保市)		
視点場:	素材:○	石材ボラード
◎	植栽:△	
タイプⅠ	配慮:◎	半円型木製デッキ
眺望:	俯角:○	7°(割島)
◎	障害:◎	
タイプb	境界:◎	海、岬・島
		
⑯虹の松原駐車場(佐賀県唐津市)		
視点場:	素材:◎	木柵
◎	植栽:◎	既存樹林
タイプⅠ	配慮:○	閑静
眺望:	仰角:△	
○	障害:◎	
タイプa	境界:○	黒松の樹形、舗装
		

⑨⑩⑬⑮であった。

チェック項目「見込み角」に関しては、①③の視対象(山の場合)が 10°程度の見やすい眺めとなっていた。

チェック項目「障害」に関しては、②⑥は電柱類や既存林により山並みが障害されていた。なお、③は地域団体による電柱類移設がなされていた。

項目「境界」に関しては、④⑤⑦⑧⑨⑩⑬⑭⑮には水陸の境、山と平地の境目、田畑の縁が明確になっていた。

(3) 現地調査結果の考察

現地調査結果に基づく、VPP の必要性や検討に關しての考察を列挙する。

a) VPP の必要性など

- ・ドライブ観光の魅力を高める一つとして、沿道の「溜まり空間」における優れた「眺望」とそれを確保するための「視点場」の整備の必要性を把握した。
- ・我が国のVPPは、路側駐車場（視点場タイプⅠ）が多いことを把握し、このタイプではわずかな時間の立ち寄りしか考慮されていないと考えられる。今後の検討においては、より多くの価値を生み出す、地域にもたらしするための工夫を検討する必要がある（前述3. (2)における表-8の⑬や⑭が一例）。その際には、地域のことを理解し、多様な利用者のニーズや利用シーンを把握した上での景観検討を行い¹²⁾、その際には前述2. (2)b)に示されるように⁹⁾、ランドスケープアーキテクトや建築家、自治体などの意見を取り入れて進めることも重要である

b) VPP の検討におけるチェック項目

- ・「視点場」と「眺望」のタイプを大別し、それらのチェック項目を6つ想定し、現地調査した結果、それらに適合させることの重要性を把握した。
- ・「視点場」と「眺望」のチェック項目について、VPPの魅力や機能を高める影響の度合いを分析する事が重要と考える。また、このチェック項目以外にもVPPの魅力や機能を向上させる要素・項目を検討する。例えば、地域の自然素材や植栽によらずにVPPの魅力・機能の向上をはかっている事例（前述3. (2)における表-8の⑮が一例）を調査することも重要となる。

4. まとめ

本稿では、沿道駐車場など「溜まり空間」の機能向上の観点から、眺望やビューポイントとしての機能に着目し、ビューポイントパーキングの計画・設計における技術開発を目的として、事例調査と現地調査に基づき、その計画・設計に関する分析を行った。得られた知見を以下にまとめる。

(1) 道路空間リデザインにおけるVPPの意義

道路空間リデザインを検討する上で、ドライブ観光の魅力を高めることは重要であり、その一つとして沿道の「溜まり空間」における優れた「眺望」とそれを確保するための「視点場」を整備する必要性を把握した。これらの「眺望」と「視点場」の機能を具備するVPPの意義は大きい。

(2) 我が国のVPPの現況と課題

我が国のVPPの多くは、路側駐車場におけるわずかな時間の立ち寄りしか考慮されていないこと（課題）を把握した。今後は、VPPでの滞在時間を向上させ、より多くの価値を生み出すために、多様な利用者ニーズと利用シーンを踏まえた検討を進める。

(3) VPPの検討におけるチェック項目

VPPの「眺望」と「視点場」を検討する際のチェック項目として、「見込み角」（眺めやすさ）、「素材」（地域の自然素材の活用）、「配慮」（訪れる人への配慮）等の6項目を想定し、それらに適合させることがVPPの魅力や機能の向上につながることを把握した。今後は、各項目の影響度合いを分析するとともに、他項目による影響の調査・分析を行う。

参考文献

- 1)国土交通省北海道開発局：道路計画課 Web ページ、ビューポイントパーキング（北海道）
https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/kn/dou_kei/ud49g7000000rjrr.html（最終検索日 2023年1月13日）
- 2) 日本道路協会：道路構造令の解説と運用、pp.694-695、2021.
- 3) 国土交通省北海道開発局：道路設計要領第2集道路付帯施設、pp.2-1-147~149、2022.
- 4) Timothy Davis, Todd A. Croteau, and Christopher H. Marston: America's National Park Roads and Parkways Drawings from the Historic American Engineering Record, Johns Hopkins University Press, pp.52-245, 2004.
- 5) Statens vegvesen: Nasjonale turistvegar Utvikling, drift, vedlikehold og forvaltning, 2019.
- 6) Jan Andresen, Arne Hjeltne, Terje Gustavsen: Nasjonale Turistveger, Forlaget Press, 2017. .
- 7) 中村良夫：風景学入門、中央公論新社、pp.46-108、2006. .
- 8) ジム・マクラスキー：パーキングの環境デザイン 駐車空間の計画・設計ハンドブック、鹿島出版会、p.32、1990.
- 9) 三沢彰、松崎喬、宮下修一：自動車道路のランドスケープ計画 環境と景観の立場からみた道路づくり、ソフトサイエンス社、p.26、1994. .
- 10) 堀繁：堀繁 講話集 景観からの道づくりー基礎から学ぶ道路景観の理論と実践一、財団法人 道路環境研究所、pp.18-78、2008.
- 11) (財) 道路環境研究所・道路景観研究会：道路景観整備マニュアル〔案〕道路景観整備の進め方、大成出版社、pp.18-127、1988.
- 12) 寒地土木研究所：景観検討にどう取り組むかー景観予測・評価の手順と手法ー【I.基本編】、pp.16-28、2022.
<https://scenic.ceri.go.jp/manual.htm>（最終検索日 2023年1月13日）